



新名神高速道路 池底高架橋（PC上部工）工事（三重県）

第70期 株主通信

平成29年4月1日～平成30年3月31日

 株式会社 ピーエス三菱

証券コード：1871



事業環境の変化を見据え 社会ニーズに対応できる体制整備、 採算性を重視した堅実な経営 を継承してまいります。

「人と自然が調和する豊かな環境づくりに貢献する」という
基本理念を胸に新たな価値を創造し、
持続的な企業成長を実現させます。

代表取締役社長 社長執行役員

藤井敏道

■ 当年度の事業環境について

株主の皆様には格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。「株主通信」をお手元にお届けするに当たりまして、一言ご挨拶申し上げます。

当連結会計年度における我が国経済は、海外経済の回復に伴う底堅い内外需要を背景に、企業収益の改善は大企業だけでなく中小企業にも波及してきており、設備投資も増加基調にあります。また、個人消費においては、雇用・所得環境の改善を受け、持ち直しの動きもあり、景気回復の裾野が広がってきております。

一方で、海外経済の不確実性や地政学的リスク等の懸念も依然としてあり、国内景気への影響など、引き続き予断を許さない状況になっております。

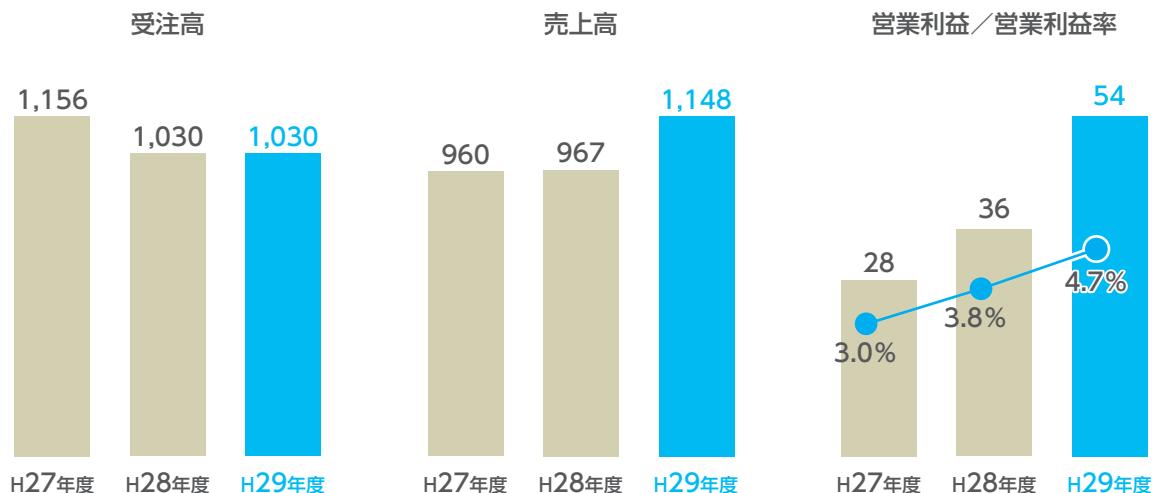
当社グループが属する建設産業におきましては、公共建設投資がピークアウトしている状況は変わりませんが、民間建設投資を含めると高い水準を維持しており、需要は底堅く推移しております。特に、好調な企業業績を受

けた既存設備の維持更新投資、人手不足を背景とした省力化・合理化等の民間設備投資意欲は高く、建設産業における企業収益は好調に推移しております。

■ 当年度の概況ならびに業績について

このような経済状況のもと、当社はグループ全体での「収益力」の向上意識を高め、企業の「安定経営」に取り組んでまいりました。土木部門では、新設橋梁の発注量が減少する中においても、新設橋梁での安定的な受注を維持しつつ、今後の成長分野である大規模更新事業やメンテナンス事業の受注拡大を目指し、組織体制の整備に努めてまいりました。建築部門においては、採算性重視の受注管理のもと「品質最優先の取り組み」および「コスト競争力の改善」といった基礎的な現場力の向上に注力すると同時に、企業成長の推進力となるストック事業の開始やPC技術を取り入れた企画・提案型の受注活動に取り組んでまいりました。

連結財務ハイライト (単位：億円)



当社グループの平成29年度の連結受注高は1,030億12百万円（前期1,030億13百万円 前期比0.0%減）となりました。連結売上高につきましては、前期からの繰越高の増加により1,148億41百万円（前期967億15百万円 前期比18.7%増）となりました。損益の状況につきましては、当社ならびに子会社の業績が順調に推移したことにより、連結営業利益54億40百万円（前期36億87百万円 前期比47.6%増）、連結経常利益53億47百万円（前期34億54百万円 前期比54.8%増）、親会社株主に帰属する当期純利益38億44百万円（前期26億53百万円 前期比44.9%増）となりました。配当につきましては、前期より6円増配し、普通株式1株につき18円の期末配当を実施させていただきます。

■ 今後の取り組みについて

当社といたしましては引き続き、主軸事業での安定した利益を確保するとともに「中期経営計画2016（2016

年度～2018年度）」の最終年度においても、基本方針・基本戦略に基づき、「成長分野をリード」、「新しいフィールドへ挑戦」というテーマの具現化に向け、自社の企業価値（存在意義）を高める取り組みを推進してまいります。

当社グループは、事業環境の変化を見据え、社会ニーズに対応できる体制整備、採算性を重視した堅実な経営を継承していくとともに、これからも社会の発展に尽くし、人々が生き活きと暮らせるような“まちづくり”に貢献する企業、そしてPC業界のトップランナーとして「変革」し続けてまいります。また、建設業界における経営の根幹である「安全」、「品質」を確保し、「コンプライアンス」を徹底する等、働き方改革の実行を含めた健全経営に努め、インフラ整備他の社会的な役割を果たし、真に魅力ある企業となれるよう、全力で取り組んでまいります。株主の皆様におかれましては、引き続きのご支援をよろしくお願い申し上げます。

連結決算の概要

土木・建築事業の増益により四期連続の最高益更新（前期比45%増）

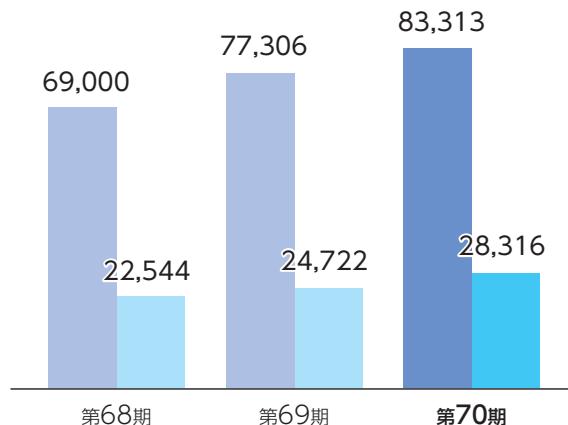
連結貸借対照表（要旨）

単位：百万円

科 目	前期末	当期末
	平成29年3月31日現在	平成30年3月31日現在
流動資産	60,263	65,977
固定資産	17,043	17,335
有形固定資産	12,232	12,073
無形固定資産	217	196
投資その他の資産	4,593	5,065
資産合計	77,306	83,313
流動負債	42,254	44,742
固定負債	10,328	10,254
純資産	24,722	28,316
負債・純資産合計	77,306	83,313

総資産／純資産 単位：百万円

■ 総資産 ■ 純資産



連結損益計算書（要旨）

単位：百万円

科 目	前期	当期
	平成28年4月1日から 平成29年3月31日まで	平成29年4月1日から 平成30年3月31日まで
売上高	96,715	114,841
売上原価	85,255	101,022
売上総利益	11,460	13,819
販売費及び一般管理費	7,773	8,378
営業利益	3,687	5,440
経常利益	3,454	5,347
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,653	3,844

自己資本比率 単位：%

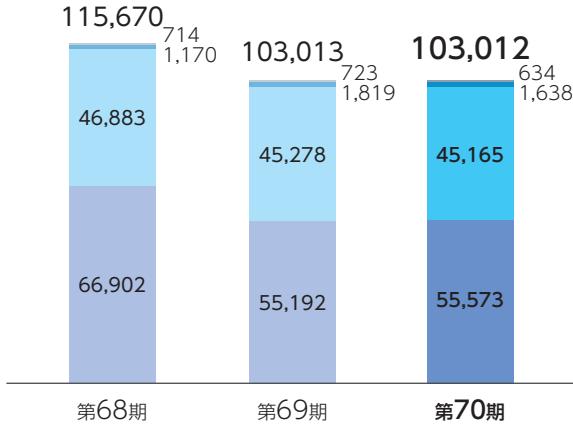


単体決算の概要

受注高 (セグメント別)

単位：百万円

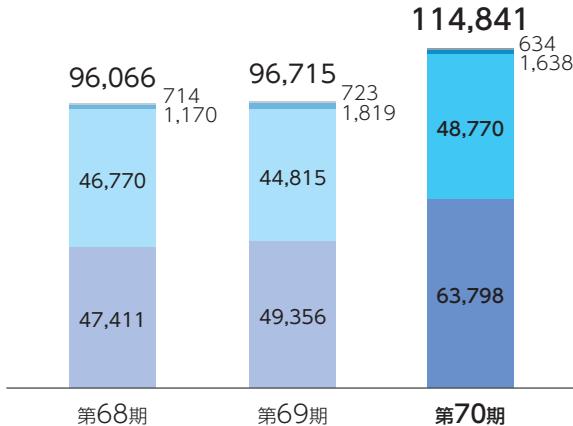
■ 土木 ■ 建築 ■ 製造 ■ その他兼業



売上高 (セグメント別)

単位：百万円

■ 土木 ■ 建築 ■ 製造 ■ その他兼業



貸借対照表要旨 (単体)

単位：百万円

科目	前期末	当期末
	平成29年3月31日現在	平成30年3月31日現在
流動資産	53,200	59,252
固定資産	15,579	15,516
有形固定資産	9,900	9,823
無形固定資産	27	27
投資その他の資産	5,651	5,665
資産合計	68,779	74,769
流動負債	37,051	40,157
固定負債	9,179	9,108
純資産	22,549	25,503
負債・純資産合計	68,779	74,769

損益計算書要旨 (単体)

単位：百万円

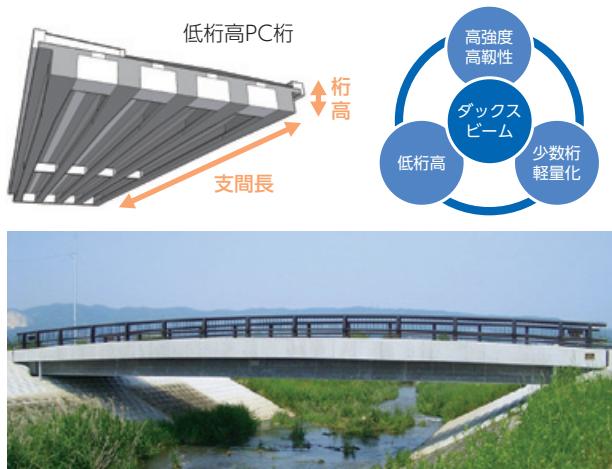
科目	前期	当期
	平成28年4月1日から 平成29年3月31日まで	平成29年4月1日から 平成30年3月31日まで
売上高	85,812	103,038
売上原価	76,905	92,126
売上総利益	8,907	10,912
販売費及び一般管理費	6,251	6,673
営業利益	2,655	4,239
経常利益	2,557	4,412
当期純利益	2,140	3,396

ダックスビームHC工法の開発 — 高強度コンクリートを用いた低桁高PC桁

近年の河川改修では、橋の架け替えにあたり、川幅を広げても橋脚の数は増やさず、桁高はできるだけ低く抑えたいというニーズがあります。

ダックスビームは、高強度繊維補強モルタル（ダックスモルタル）を使用した低桁高PC桁で、スリムで長い橋梁を実現できる上に、塩害という厳しい環境下においても100年を超える耐用年数があります。さらに、部材を工場で製作するため、桁下の条件に左右されずに施工でき、また、部材数を削減して10～20%の工事費削減効果が期待できます。

ダックスビームHCは従来工法の特長を活かしつつ、材料をモルタルから高強度コンクリートに変更することで、より生産性が高く、コスト削減につながる新しい低桁高PC桁として期待されています。



開発者インタビュー



遠藤 俊之
技術本部技術研究所
材料グループ

■開発の背景は？

従来のダックスビーム工法では、1日の製造可能量の制限とコンクリートの打設から型枠の取り外しにかかる時間等により、週に1本のPC桁しか製作できないという生産性での課題がありました。

そこで、従来のモルタルをセメント使用量の少ないコンクリートに変更し、短時間で強度が得られる「早強セメント」と強度を高め

る「混和材」を併用した新しい材料を開発しました。これにより、ダックスモルタルよりも製造可能量が増加し、製作に必要な時間も短縮されます。また、セメントの使用量を減らせたため、



耐力性能確認試験

材料価格が抑えられ、市場における競争力も向上します。

■現在の開発段階は？

技術研究所で開発された材料を用いて土木技術グループでは実際の橋梁部材としての性能確認試験を行いました。現在は公的機関の審査を受ける段階にあり、審査で技術の有効性が認められれば、あと1年程度で実用化に至ると考えています。

■開発者の醍醐味とは？

材料の開発やそれを製品化するための技術試験を通じて、当社の最先端技術を提供すること、より高品質で耐久性の高い製品をリーズナブルな価格で市場に提供することに意義を感じます。



中井 聖棋
技術本部技術部
土木技術グループリーダー

高速道路 大規模更新・修繕事業への当社施工技術の全国展開

高速道路の大規模更新事業とは、老朽化が進む本体構造物を最新技術を用いて再施工することにより、耐久性を向上させ、長期にわたって健全に保つための高速道路会社各社の施策です。

その中で、鋼橋上のRC床版（一部PC床版）をプレキャストPC床版へ取り替える工事（全国で約1,000橋、1.6兆円規模）を主体として、当社の技術が各所で活かされています。

東名高速自動車道

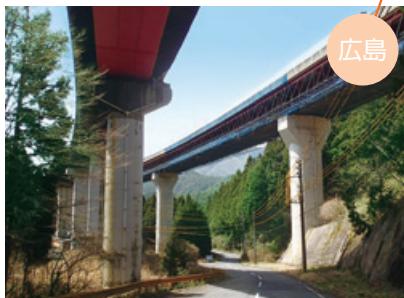
(特定更新等) 沼津IC～富士IC間床版取替工事
(平成28年度)



受注額：909百万円
受注形態：JV代表（40：30：30）
予定工期：H29.6～H31.10

中国自動車道

(特定更新等) 常国橋他2橋床版取替工事



受注額：3,646百万円
受注形態：JV代表（60：40）
予定工期：H29.5～H33.7

首都高速道路

(修) 構造物改良工事1-206



受注額：895百万円
受注形態：単独
予定工期：H29.2～H31.11

八戸自動車道

榎山橋床版補強工事



受注額：1,750百万円
受注形態：単独
予定工期：H29.3～H30.12

東北自動車道

岩堰橋床版取替工事



受注額：1,327百万円
受注形態：単独
予定工期：H29.3～H30.12

当社のPC建築 – スタジアム編

スポーツには、競技するにしても観戦するにしても人々を躍動させる魅力があります。とくに、多くの観戦者を伴う競技においては、観戦者はアスリートと一体となって試合を盛り上げます。そのような競技に欠かせないのがスタジアムであり、そのスタンドに、プレキャスト技術とプレストレス技術を活用した「PC段床版」が採用されていることをご存じでしょうか。大規模なスタジアムではほぼ100%、このPC段床版が用いられています。

スタンドは、どの位置からも競技に対して死角を作らないように細かな工夫がなされています。スタンドの傾斜や競技ヤードに向かう方向等、かなり複雑で、それを造るのは容易ではありません。

そこで活躍するのが、工場製品であるが故にさまざまな形状に対応でき、寸法精度に優れ、しかも軽量のプレキャストのPC段床版です。PC段床版は、建築工事の工期短縮など生産性向上に欠くことのできないアイテムで、当社グループの工場生産されています。



またご存じのように、サポーターの試合中の興奮度は並大抵ではありません。過酷な使用条件に耐え、しかもプレストレスによる復元力を楽しむかのような跳躍ができるのもPC段床版ならではのものです。コンクリート製品でありながらこのようなことができるのは、コンクリートにひび割れを許さないというプレストレスがなせる技です。

スタジアムにお越しの際には、これぞPC段床版という躍動感をぜひ体感してみてください。

〔ネットワークの強み (P16)〕では、当社グループ工場で作成されるPC段床版を紹介しています



働き方改革「Smart Work 本気で改革！」を始動



平成30年度の取り組み

- 総労働時間の削減
- 週休2日の推進
- ハラスメント対策、
従業員満足度調査結果の分析・対策
- Smart Work Meetingの設置
(各支店で毎月実施)

当社グループでは、働く人々の生活を守り、働く意欲を向上させ、ハラスメントのない風通しの良い企業風土確立の実現に向け、「Smart Work 本気で改革！」をキャッチフレーズとして、働き方改革に取り組んでいます。

この改革には全従業員の意識改革が不可欠であることから、会社貸与のスマートフォン内に当社独自のアプリケーションを作成し、情報の共有を図っています。

労働組合の協働のもと、さまざまな角度から働き方を検討し、「すぐにやらなければならないこと」「すぐにできること」から、全社をあげて抜本的かつ本気で取り組むことで、多様な人材が強みを発揮しながら活躍できる環境を実現し、生産性を向上させることにより、会社の中長期的な成長を目指してまいります。

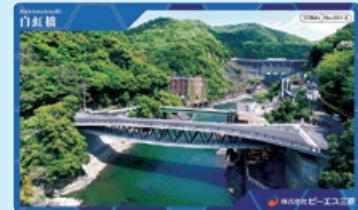


企業認知度向上への取り組み

橋カード 10.7万枚配布

当社が関わるインフラ整備への理解と関心をより深めていただくために、橋梁や建物の概要や特長・こだわり技術等の情報を提供する「橋カード」を作成し、さまざまなイベントで地域の方へ配布しています。

平成28年からはじめたこの取り組みは、現在（平成30年5月末）では40種類、10.7万枚を配布しており、企業認知度向上に貢献するツールとなっています。



PR動画のYouTube公開



企業認知度向上を目的にPR動画を制作し、平成29年12月よりYouTubeで公開しています。

藤井社長からのメッセージや、現場作業所で働いている社員や職場の雰囲気等を盛り込んだ内容となっておりますので、ぜひご視聴いただけたら幸いです。

映像はこちらから



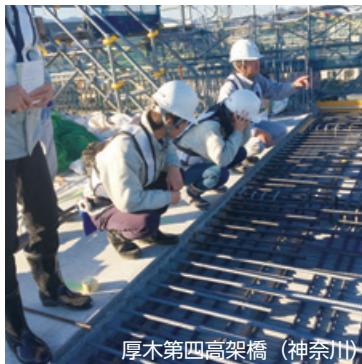
ピーエス三菱グループのCSR活動

「リスクマネジメントの推進」「コンプライアンスの推進」「ステークホルダーコミュニケーションの推進」「地域社会への貢献」をCSR基本活動方針に掲げ、「人と自然が調和する豊かな環境づくりに貢献する」という基本理念の実現に向けて、PDCA（計画・実行・評価・改善）を実践し、充実したCSR活動を行うことで更なるステップアップを図るべく取り組んでいます。「地域社会への貢献」の一環として、今期に開催した見学会の取り組みをご紹介します。

地域社会への貢献

当社が施工する工事へのご理解やインフラ整備の重要性等をより一層深めていただくため、近郊住民の方々や幼稚園児、小・中学生を対象に現場見学会を積極的に開催しています。見学会では、橋の説明はもちろんのこと、橋面に絵を自由に描いてもらったり、ドローンによる記念撮影等を行ったりと、とても好評でした。

また、技術系学生を対象にした研修会等も多くの現場で開催し、施工方法等の技術について関心を高めていただくことができました。



interview

橋とのふれあい見学会

9月と12月の2回にわたり、現場近くのこども園の園児と先生方（総勢25名）をお招きし、大変喜んでいただくことができました。また、見学会の様子がテレビ静岡や新聞にもとりあげられました。その見学会をきっかけに、こども園からクリスマス会にお招きいただくなど、地域と交流できたことを嬉しく思います。

今後も多くの方々に橋に親しみを持っていただけるよう積極的に取り組んでいきます。



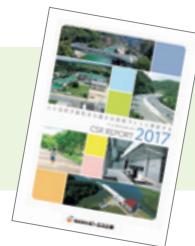
水上2号橋上流側
所長 鷲見 英俊



CSR報告書2017

当社ホームページ内の「CSR報告書」にて、CSR活動の情報がご覧いただけます。

アドレスはこちら ▶ <http://www.psmic.co.jp/csr/>



完成工事のご紹介・・・土木編

新名神高速道路 有野川橋 (鋼・PC複合上部工) 工事

[兵庫県]

本工事は、平成29年度に開通した神戸JCT*～高槻第一JCTのうち、神戸JCT付近に位置し、有野川を跨ぐ径間を鋼構造とした鋼・コンクリート連続混合橋を含む橋長341mの橋梁です。

上部工工事の工程を大幅に短縮するために構造変更を行い、無事竣工することができました。

※JCT=ジャンクション



箱崎～東浜橋梁補修工事 (27-4)

[福岡県]

本工事は、福岡北九州高速道路公社が管理している福岡高速道路の維持修繕工事です。

供用開始から30年以上経過していることから、道路の長期にわたる健全性を確保するために、老朽化および予防保全対策が推し進められています。



平成28年度 13号地新客船ふ頭岸壁 (-11.5m) 連絡通路建設工事 (その1) [東京都]

本工事は、東京臨海副都心地域に建設される大型客船ターミナルへの連絡通路を建設する工事です。

今後、世界と東京を結ぶ大型客船ターミナルとして、東京の新しい「海の玄関口」として利用されることが期待されています。

緑ヶ丘浄水場 急速ろ過池設備改良工事

[奈良県]

本工事は、奈良市内に飲料水を供給する主要な浄水施設で、稼働中の急速ろ過池10池について、耐震補強および機械・電気設備の更新増設を行いました。

これにより地震時等におけるライフラインの機能が強化されました。



北海道横断自動車道朝里川橋 (PC上部工) 工事

[北海道]

本工事は、現在建設中の北海道横断自動車道（北海道余市町～小樽市新光町）のうち、終点側（新光町）に位置するPC橋です。

平成30年度の全線開通が期待されています。



平成28年度 金武BP2号橋 上部工 (A1～P4) 工事

[沖縄県]

本工事は、沖縄本島北東部に位置する国道329号金武バイパス工事（延長5.6km）の一環で、金武バイパス2号橋の橋長431mのうち、名護側から140m区間の橋桁の架設工事を行いました。

完成工事のご紹介・・・建築編

国際医療福祉大学 医学部新築工事

[千葉県]

京成本線公津の杜駅前に立地し、昨年4月に開学したⅠ期棟の南側に隣接するⅡ期棟を設計施工で建設しました。

2棟あわせて延床面積が1万4千坪を超える校舎は、PCaPC造を採用したことで工期短縮や環境負荷低減を図りながら、耐震性・耐久性の高い建物となっています。

平成28年に開学した成田看護学部・成田保健医療学部棟から引き続き、3年半にわたる工事となりました。



ヨークベニマル古川店建替工事

[宮城県]

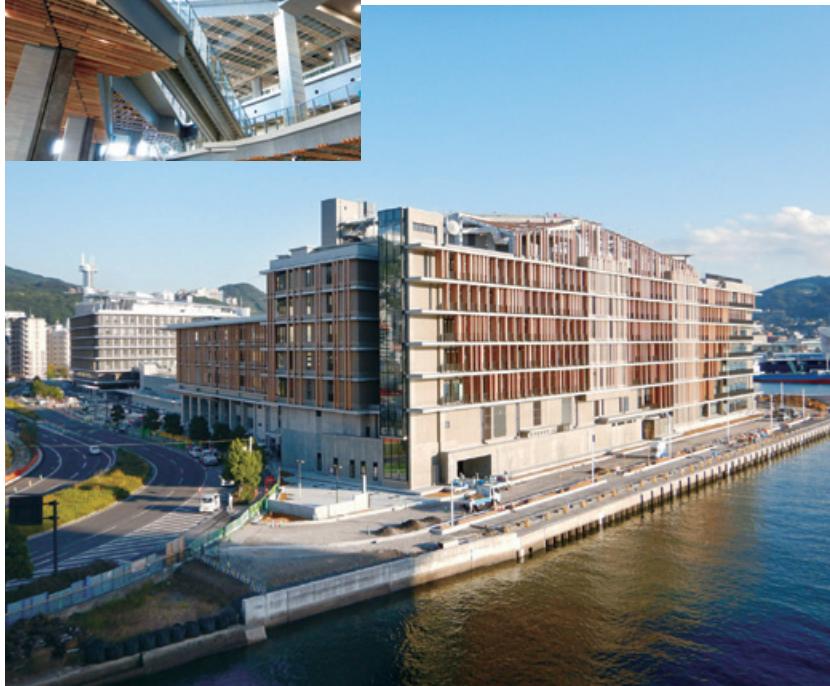
基礎スラブと改良層が一体化した『TNF工法』を採用しました。杭を必要としないため、地盤沈下による杭の抜け上りがないので、地中またはスラブ下の設備配管が破断することがなく、また杭基礎のように深くまで掘り下げる必要もありません。さらに基礎躯体数を大幅に低減できる、安心・安全・ローコストな工法です。

株式会社八戸魚市場 製氷・冷蔵工場

〔青森県〕 PC工事

八戸市の水産卸、株式会社八戸魚市場の既存製氷・冷蔵工場（昭和43年完成）の老朽化に伴い、新たな製氷・冷蔵工場が建設されました。

当社は、PCaPC工事を請負い、グループ会社のピー・エス・コンクリート(株)北上工場で作成した総重量3,515tの部材を現地にて短工期で組み立てました。



長崎県庁舎行政棟新築工事

〔長崎県〕 PC工事

昭和28年に建設された旧庁舎の老朽化に伴い、新庁舎が建設されました。

新庁舎は防災拠点施設としての耐震性と機能を備え、コンパクトで低コスト、省資源・省エネルギー等環境にも配慮するとともに、県民の憩いや協働の場となるよう計画されました。

当社は、PCaPC工事を担当し、床版・階段版・ルーバー等のPCa部材製作・運搬・架設工事を請負い、自社の久留米工場で作成した部材を現地にて組み立てました。また現場打ち梁にもPC工法が採用されています。



愛知工場再配置計画 工場棟2期工事

〔愛知県〕

本物件の前面道路は旧東海道で、松並木の保存地区に指定されています。当社の設計施工で主力工場のポテンシャルを最大限に活かしてい

けるように計画し、事務所と工場が併設されています。



倉敷市立児島市民病院建築工事

〔岡山県〕 PC工事

昭和48年に建設された同病院の施設老朽化に伴い、地域で求められる医療ニーズに応えるために建設されました。

市民が親しみをもてるデザイン計画と、大スパン架構の採用・十分な階高設定・自由なレイアウトが可能なフレキシビリティのある設計となっています。

当社はPCaPC工事を請負い、グループ会社のピー・エス・コンクリート(株)水島工場で作成した部材を現地にて短工期で組み立てました。



当社グループの10工場（国内7、海外3）では、充実した設備と厳しい品質管理のもと、コンクリート製品のエキスパートたちが高品質な部材を製作し、全国各地の建設現場に供給しています。

技術開発に欠かせない新素材等を用いたコンクリート製品の開発を協働で行うなど、『グループ力』を結集し、連携を深めながらサプライチェーン全体を見据えて、需要の拡大に応え得るさまざまな付加価値の創造を目指しています。



だんしょうばん
段床版



だんぼり
段梁

競技場のスタンド部分に使用される段床版・段梁（上写真）も工場で作っている部材の一つです。形状が複雑なので現場で施工すると多くの手間がかかりますが、工場製作することで現場作業の省力化や高強度コンクリートを使用することでコンクリート量を3割程度削減できるとともに、品質確保と安定した工程を進めることが可能となります。

（トピックス「社のPC建築－スタジアム編（P7）」では当社グループのPC段床版がスタジアムに用いられる理由について解説しています）



工場

一貫した
生産システム
品質管理力
安定供給

建設現場

ピー・エス・コンクリート(備前工場)

歴史探訪（スタジアム建設）

平成5年に日本プロサッカーリーグ（Jリーグ）が開幕し、平成14年の日韓共催・FIFAワールドカップ開催が決定した時代、スタジアムの建設需要が一気にピークを迎えました。当社グループでも国体秋季大会（平成7年）のメイン会場となった熊本競技場新築工事を皮切りに、仙台・新潟・茨城・埼玉・静岡などの多くのスタジアムを手掛け、現在もなお当社グループの技術が求められています。



会社情報

■ 会社概要

商号 株式会社ピーエス三菱
P.S. Mitsubishi Construction Co., Ltd.

設立 昭和27年3月1日

資本金 4,218,500,000円

従業員数 単体：1,067名
(平成30年3月31日現在) 連結：1,725名

本社・支店 (平成30年4月1日現在)

本社 〒104-8215
東京都中央区晴海二丁目5番24号
(03) 6385-9111

東京土木支店 〒104-8572
東京都中央区晴海二丁目5番24号
(03) 6385-9511

東京建築支店 〒104-8572
東京都中央区晴海二丁目5番24号
(03) 6385-9611

東北支店 〒980-0811
宮城県仙台市青葉区一番町一丁目8番1号
東菱ビル
(022) 223-8121

名古屋支店 〒460-0002
愛知県名古屋市中区丸の内一丁目17番19号
キリックス丸の内ビル
(052) 221-8486

大阪支店 〒530-6027
大阪府大阪市北区天満橋一丁目8番30号
OAPタワー
(06) 6881-1170

広島支店 〒730-0036
広島県広島市中区袋町4番25号
明治安田生命広島ビル
(082) 240-7011

九州支店 〒810-0072
福岡県福岡市中央区長浜二丁目4番1号
東芝福岡ビル
(092) 739-7001

■ 役員 (平成30年6月21日現在)

取締役および監査役

代表取締役社長	藤井敏道
代表取締役副社長	森拓也
代表取締役	蔵本修
代表取締役	黒柳辰弥
取締役	小山靖志
取締役	居村昇
取締役	岸和博
取締役	鈴木俊明
取締役	佐野裕一
常勤監査役	朝倉浩
常勤監査役	大内辰夫
常勤監査役	鈴木義晃

(注) 取締役岸和博、鈴木俊明、佐野裕一の3氏は社外取締役であります。
監査役朝倉浩、大内辰夫の両氏は社外監査役であります。

執行役員 (※は取締役兼務)

※ 社長執行役員 (全般統理)	藤井敏道
※ 副社長執行役員 (社長補佐・技術本部長・ 海外事業担当)	森拓也
※ 専務執行役員 (土木本部長)	蔵本修
※ 常務執行役員 (建築本部長)	黒柳辰弥
※ 常務執行役員 (管理本部長)	小山靖志
常務執行役員 (国内関係会社担当 兼安全品質環境担当)	塚原明彦
常務執行役員 (東京建築支店長)	川原利朗
常務執行役員 (東京土木支店長)	宮脇裕明
※ 執行役員 (建築本部副本部長・ 経営企画担当)	居村昇
執行役員 (建築本部副本部長 兼管理本部副本部長兼不動産部長)	正木慎一
執行役員 (建築本部副本部長)	山田宏志
執行役員 (名古屋支店長)	森勝茂
執行役員 (大阪支店長)	森島修
執行役員 (東北支店長)	光田秀幸
執行役員 (広島支店長)	三島康造

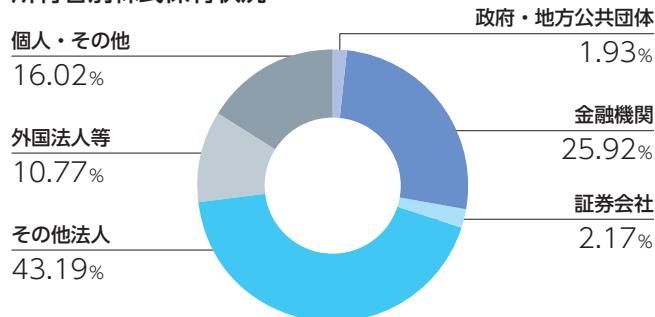
■ 株式の状況 (平成30年3月31日現在)

発行可能株式総数	11,000万株
発行済株式の総数	47,486,029株
株主数	7,636名

大株主

株主名	当社への出資状況	
	持株数(株)	議決権比率(%)
三菱マテリアル株式会社	15,860,354	33.48
みずほ信託銀行株式会社 退職給付信託 太平洋セメント 再信託受託者 資産管理サービス信託銀行株式会社	4,491,300	9.48
日本トラスティ・サービス信託銀行 株式会社 (信託口)	2,598,500	5.48
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社 (信託口)	2,095,600	4.42
住友電気工業株式会社	1,834,800	3.87
岡山県	839,740	1.77
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (役員報酬BIP信託口・75949口)	601,100	1.26
日本トラスティ・サービス信託銀行 株式会社 (信託口5)	507,100	1.07
三菱地所株式会社	496,000	1.04
株式会社大林組	400,000	0.84

所有者別株式保有状況



ホームページのご案内

当社のホームページでは、株主の皆様向けの情報として、財務・業績情報、IR資料、プレスリリース等、IRに関する情報をタイムリーに掲載しています。ぜひ、ご活用ください。

アドレスはこちら

<http://www.psmic.co.jp/>



■ 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月
同総会議決権行使株主確定日	3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL http://www.psmic.co.jp/ ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 電話0120-232-711 (通話料無料) 郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
上場証券取引所	東京証券取引所
単元株式数	100株

(ご注意)

- 株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本店でお支払いいたします。
- 株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関の事務拠点の移転に伴い、平成29年8月14日付にて上記のとおり変更しております。

株主の皆様の声をお聞かせください

当社では、株主の皆様の声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。
お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにて
ご回答ください。所要時間は5分程度です。

 <http://www.e-kabunushi.com>
アクセスコード 1871

いいかぶ

検索

 空メールによりURL自動返信 kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入)
アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

- アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。

ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝（図書カード500円）を進呈させていただきます



※本アンケートは、株式会社 a2media（エー・ツー・メディア）の提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。
（株式会社 a2media についての詳細 <http://www.a2media.co.jp>）
※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます。事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

- アンケートのお問い合わせ「e-株主リサーチ事務局」 TEL: 03-5777-3900 (平日 10:00~17:30)
MAIL: info@e-kabunushi.com

表紙の説明



本橋は、新名神高速道路新四日市JCTの西部に位置する上り線751m、下り線708mの鋼-コンクリート複合構造の橋梁です。将来的には片側3車線を見据えた構造であり、今回は暫定形（片側2車線）での開通となっております。

コーポレートマーク



生命の神秘である植物の発芽がモチーフです。発芽は、力強い成長を意味し、新分野・新領域の開拓を表現しています。

また、オレンジが大地（=土木）、ブルーが空（=建築）、全体で地球をイメージして、自然と共生する企業を具象化しています。



見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。



この印刷物は、有機溶剤等を使用しない環境にやさしい「水なし印刷」で印刷し、「ベジタブルインキ」を使用しております。また、針金を使わずに製本しております。